

令和6年度学校評価報告書

北海道室蘭養護学校

1 本年度の重点目標

子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育実践の推進
～子どもたち一人一人を主語にした取組の充実～

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教職員の達成率が低く、改善が必要な項目	【教職員】 「私は、働き方改革を意識してタイムマネジメントを行っている」「学校は、十分に働き方改革を推進している」の達成率は、前者が70%で、後者が79%であった。学校評価の全項目中、関連する両方の項目が80%を下回ったのは、この項目のみであった。昨年度の関連項目「働き方改革を意識したタイムマネジメントができています」は54%であった。 昨年度と比較すると、改善が見られ、成果があったと評価できる一方で、今後も継続した取組が必要となる項目となっている。	【保護者・施設】 「学校の職員は、時間外勤務を短くするなど、さらに「働き方改革」を意識して業務にあたる必要があると思う」の達成率は、96%で学校の取組について肯定的であった。 【学校運営協議会】 令和6年度第3回学校運営協議会において、学校評価集計表を確認した。児童生徒が意欲的に学ぶ姿が見られたこと、教職員の指導に工夫が見られることや教職員の働き方等について、委員の皆様からご意見をいただいた。
改善方策	懸案事項であった校内の会議のあり方について、今年度は、取組に係るアンケートを実施し、「職員会議及びその他の必要な会議において、事前に資料提示と懸案事項の検討を行う」ことや、「会議等を行わない日を設定し、職員一人ひとりの業務を確保する」ことを試行した。次年度は、取組を継続するとともに、年度の途中で再評価し、改善する。	
保護者の達成率が低く、改善が必要な項目	【教職員】 「私はICTを授業で活用している」「学校は、ICTを授業で活用している」の達成率は、前者が72%で、後者が96%であった。また、「私は、校内研修等に積極的に参加し、専門性の向上を図っている」「学校は、校内研修等に積極的に参加し、専門性の向上を図っている」の達成率は、前者が77%で、後者が91%であった。 教職員には、ICTの活用や専門性の向上等について、自身よりも、学校全体の取組を高く評価する傾向があった。	【保護者・施設】 わからないを除いた評価の達成率は、すべての項目が、80%を上回った。最小の値は、「卒業後の進路に関する情報（高等部の受検を含む）は、わかりやすく説明されていると思う」「学校は、ICTを授業で活用している」の86%であった。 保護者には、高い達成率であるものの、その他の項目と比較して、ICTの活用の様子や進路先の情報について、校内の取組等を知りえていない傾向があった。
改善方策	働き方改革の取組と連動し、職員が専門性を図ることができる時間を確保するとともに、実践の相互理解、意見交換等を通じた教育の質の向上を図る取組を推進する必要がある。研究部の取組を軸とした実践ベースの研究、研修を全職員で推進する。 また、進路の状況について、PTA総務部と進路支援部の合同研修会を実施したり、進路先の情報等を「進路だより」などを活用したりして積極的に公開する。	